

# 第2次木津川市 都市計画マスターplan

## 概要版



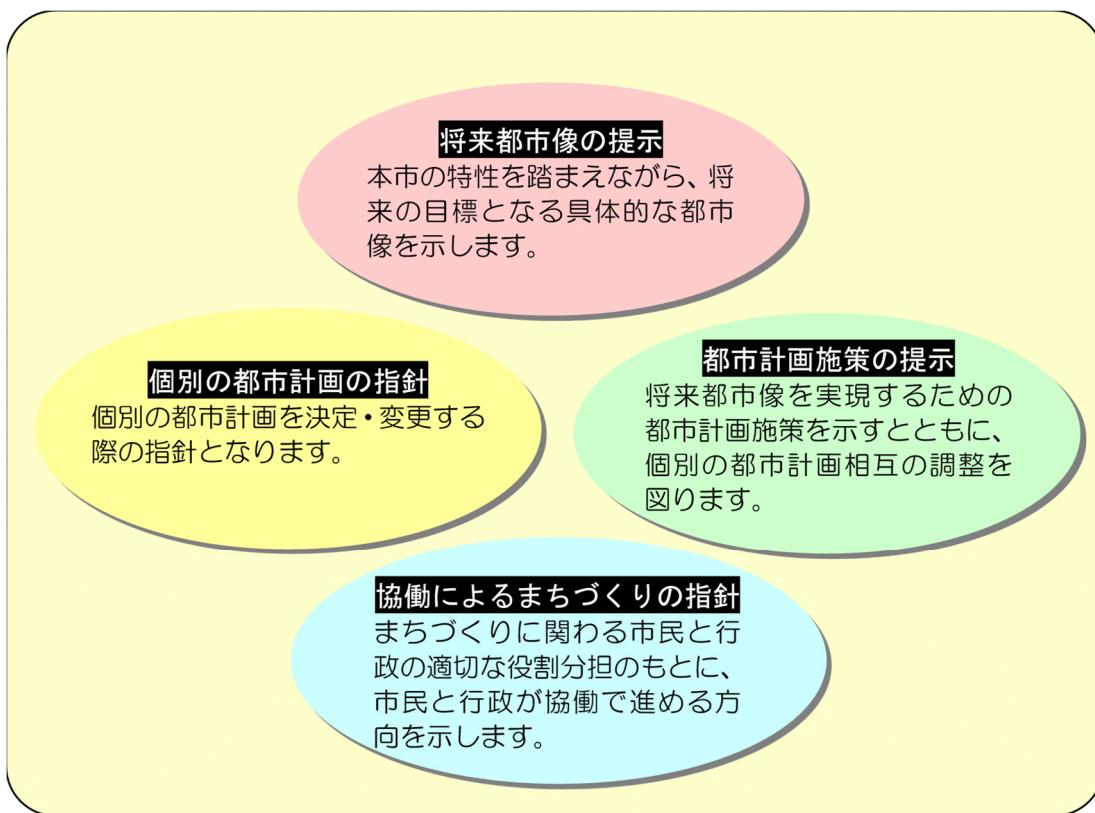
自然と文化を身近に 未来を拓く学研都市 木津川

木津川市

# I 計画の前提

## 1 都市計画マスタープランとは

「都市計画マスタープラン」とは、市民の皆さんに一番身近な自治体である市町村がまちづくり（都市計画）の基本的な方針を示すものです。市が目指す木津川市の将来像を示し、その具体化のための整備方針を定め、市民、事業者、市役所がこれを共有しながらより良いまちづくりを進めるために策定するものです。



## 2 目標とする年次

目標年次は、10年後の令和12年度（2030年度）とします。ただし、このマスタープランは、まちづくりの長期的な方向性を示すもので、実現までに目標年次を超える長い期間を要する内容も含まれています。

## 3 対象範囲

木津川市の都市計画を展望する上で、都市計画区域外の山林等も市を構成する一要素として重要な役割を果たすことから、対象範囲は、都市計画区域外も含めた木津川市全域とします。

## II 全体構想

### 1 都市計画の目標

都市計画マスターPLANは、「第2次木津川市総合計画」（以下、「総合計画」という。）におけるまちの将来像『子どもの笑顔が未来に続く 幸せ実感都市 木津川』を実現するうえでの都市計画分野を担います。

木津川市では、自然と歴史によって育まれてきた文化を身近なものとして捉えて、まちを未来ある子どもたちに継承するとともに、関西文化学術研究都市の持続的な発展を都市計画として支えていき、新旧文化が調和した、子どもの笑顔が未来に続く都市の実現を目指します。

#### 都市計画の目標

自然と文化を身近に 未来を拓く学研都市 木津川

### 2 都市計画を進めていく上での基本的な視点

- まち全体の調和と一体感の向上による、木津川市らしさの演出
- 地域特性に応じた拠点の適正化による、クラスター型の都市づくり
- 安心・安全に暮らせる、災害に強い都市づくり
- 都市と自然が調和した持続可能な都市づくり
- 市民との協働による、木津川市の魅力の向上

### 3 人口フレーム

木津川市は人口増加が続いているが、令和2年9月末時点の人口は78,724人となっていますが、平成30年3月に公表された国立社会保障・人口問題研究所の将来人口推計によると、木津川市の人口は令和12（2030）年をピークに、その後は減少に転ずると推計されています。

本計画においては、「総合計画」の将来目標人口の算出方法を踏襲し、令和12（2030）年における将来目標人口を80,000人とします。

令和12年（2030年）における将来目標人口	80,000人
------------------------	---------

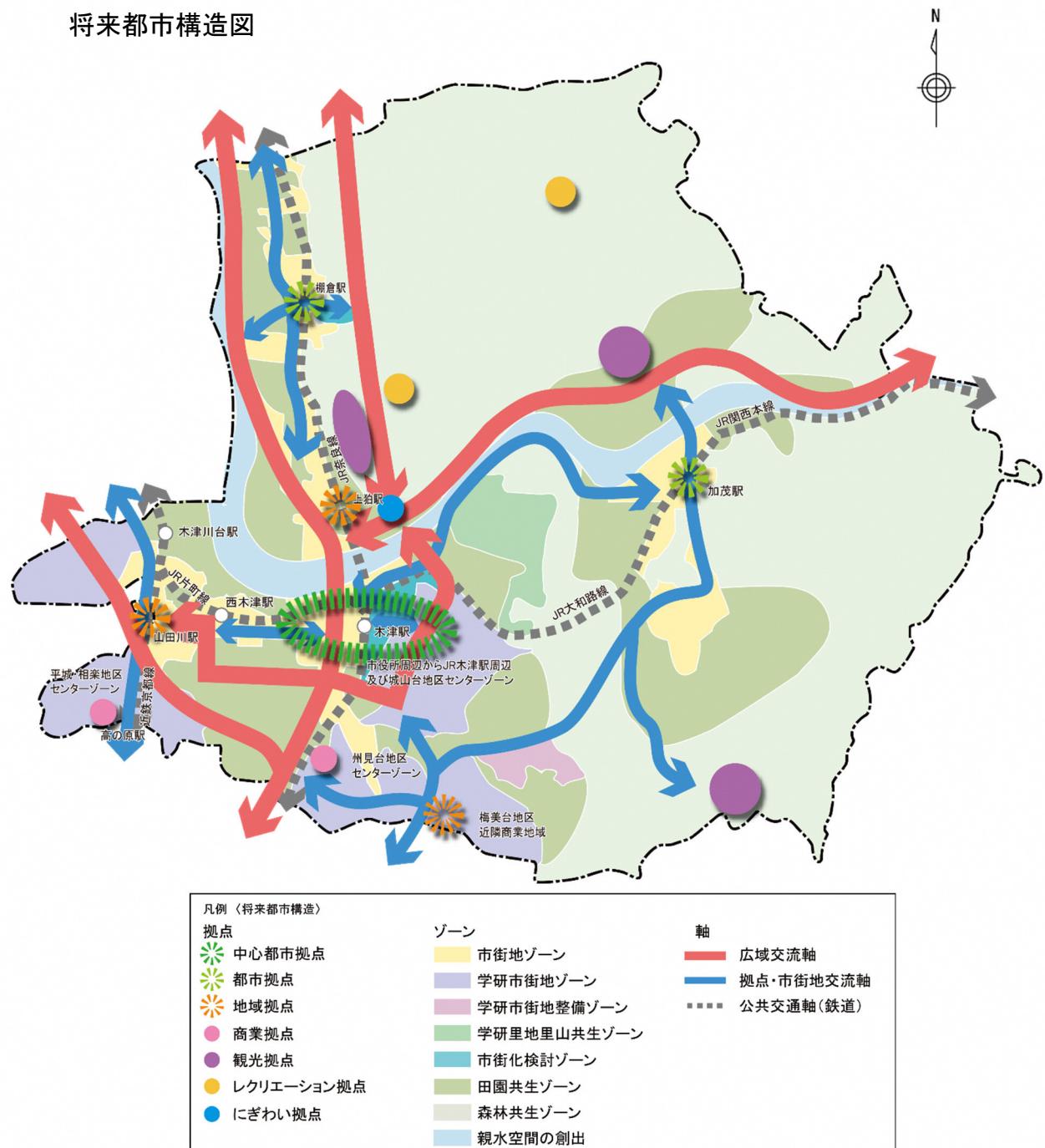
## 4 将来都市構造

「総合計画」に位置付けられた木津川市の将来像や都市計画の目標の実現に向け、これまでのまちの歴史や都市計画を進めていく上での基本的な視点を踏まえた都市構造を設定します。

持続可能な社会の実現を目指して、集約型の都市構造の構築を基本とし、関西文化学術研究都市の整備が進められていることや、地域毎のまちづくりの経緯、方向性などを踏まえて拠点を設定し、都市機能配置の適正化による拠点の機能維持や向上を図ります。

また、それぞれの拠点が道路や公共交通で有機的に連携したクラスター型の都市構造を形成し、木津川市全体の調和と一体感の向上を図ります。

将来都市構造図



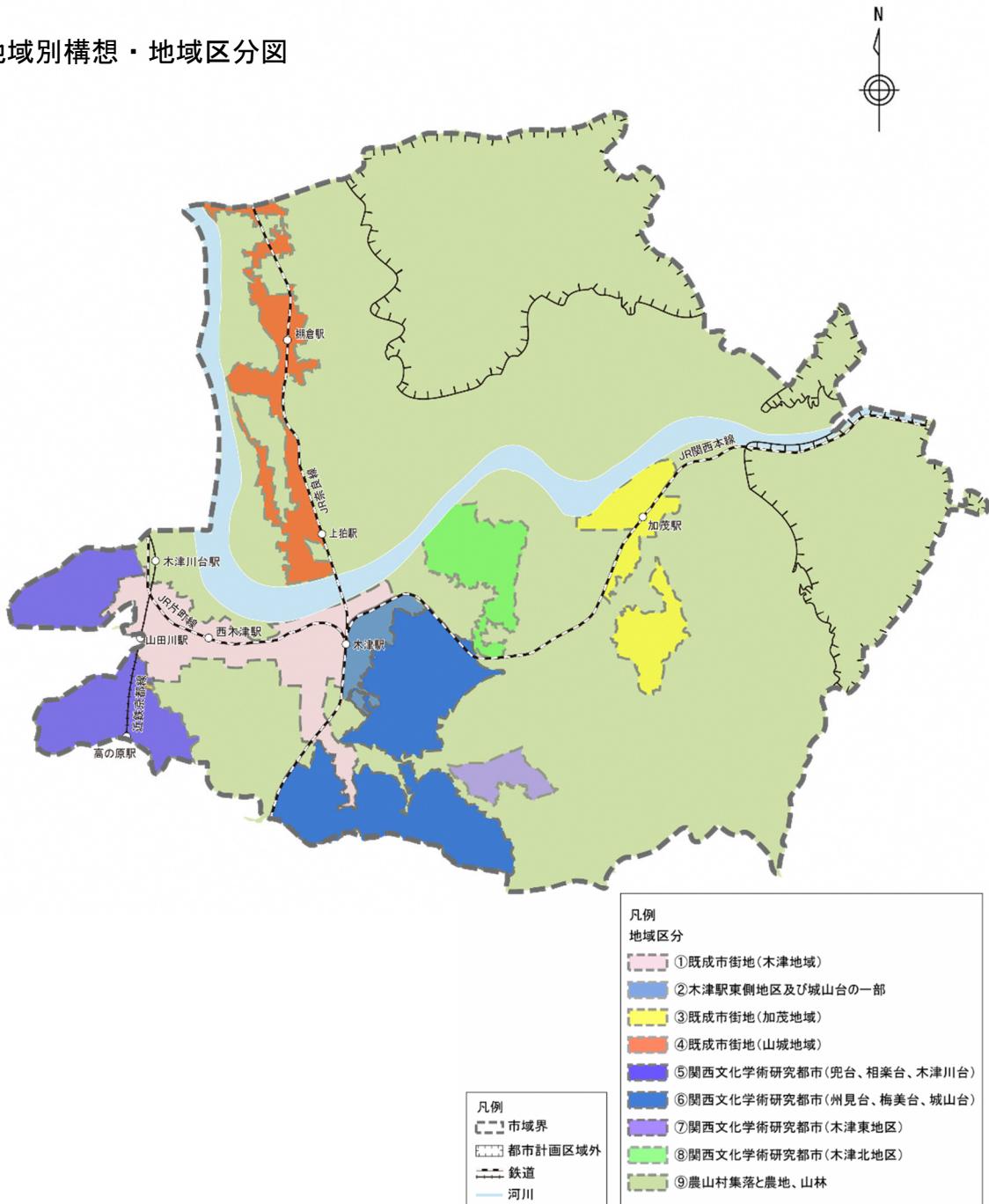
### III 地域別構想

#### 1. 地域区分の考え方

木津川市の構造を見ると、大まかには、盆地に古くから形成されている既成市街地、丘陵部に開発された関西文化学術研究都市、農山村集落・山林で構成されており、それらが一体となり木津川市の魅力を醸し出しています。

これらを踏まえ、全体として魅力ある木津川市の実現に向けて、それぞれの特性を活かした魅力ある地区の形成を図っていくため、以下の地域区分に基づく地域別構想を定めます。

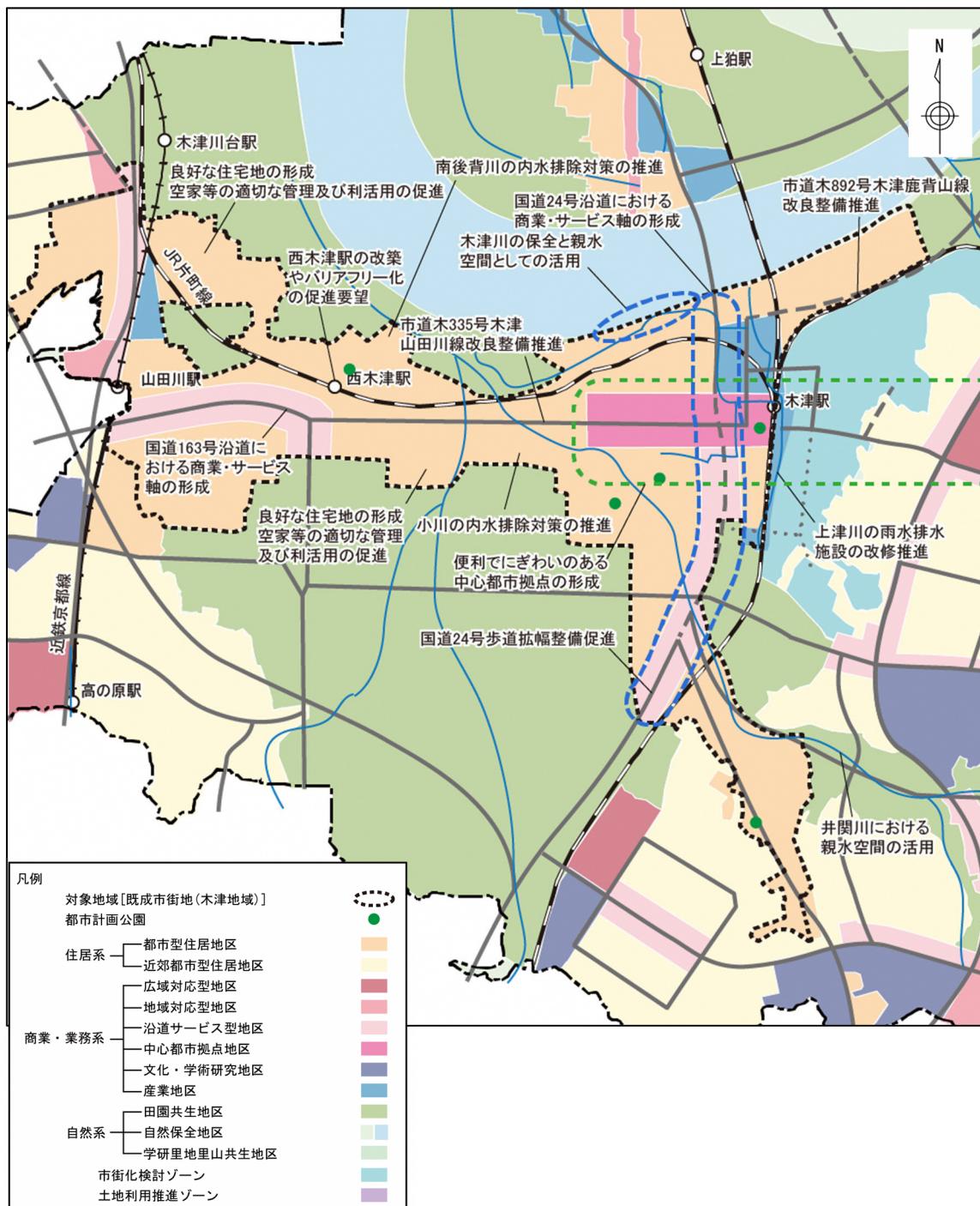
地域別構想・地域区分図



## 2. 地域別構想

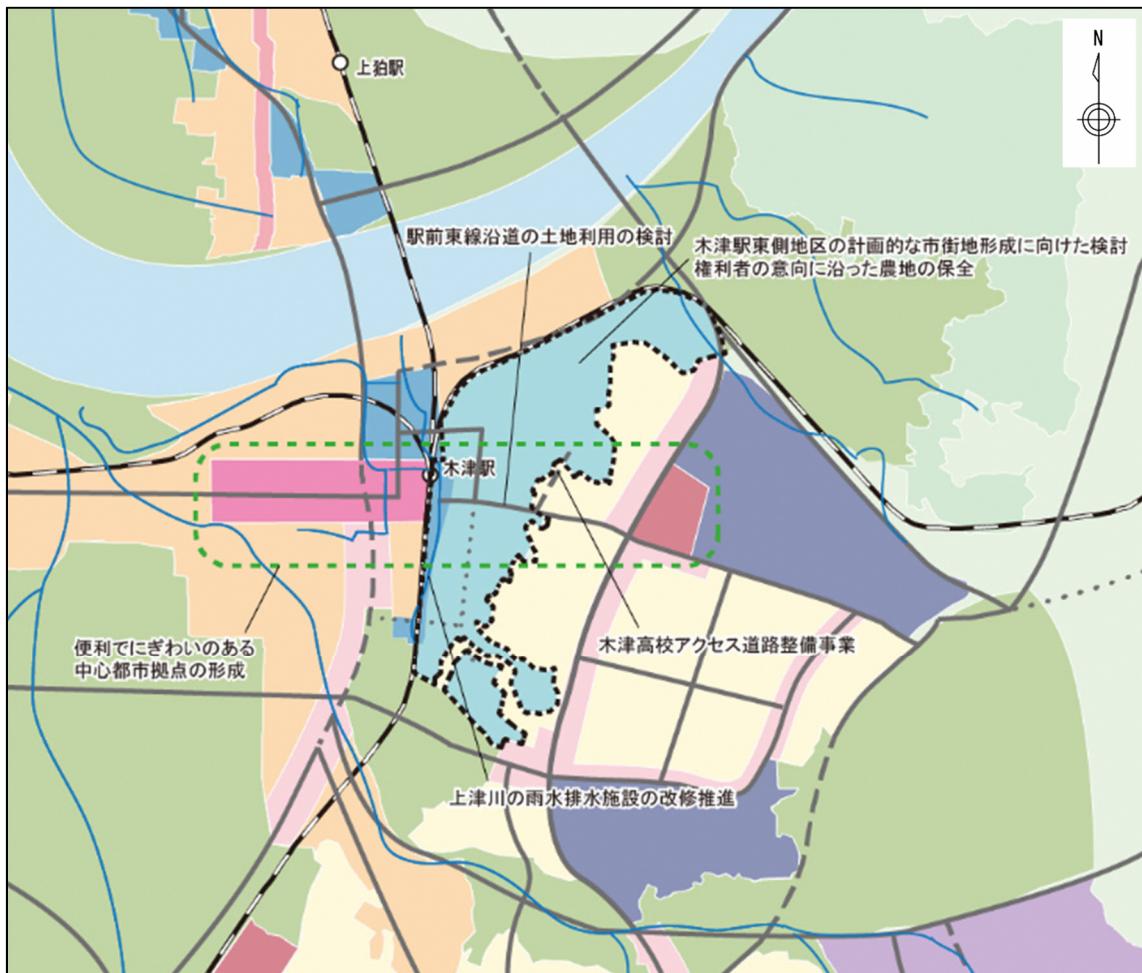
### 1 既成市街地（木津地域）

- 木津川市の活力を生む中心都市拠点の形成
- ずっと住み続けたくなる良好な居住地の形成
- 便利で快適な交通環境の形成



## 2 木津駅東側地区及び城山台の一部

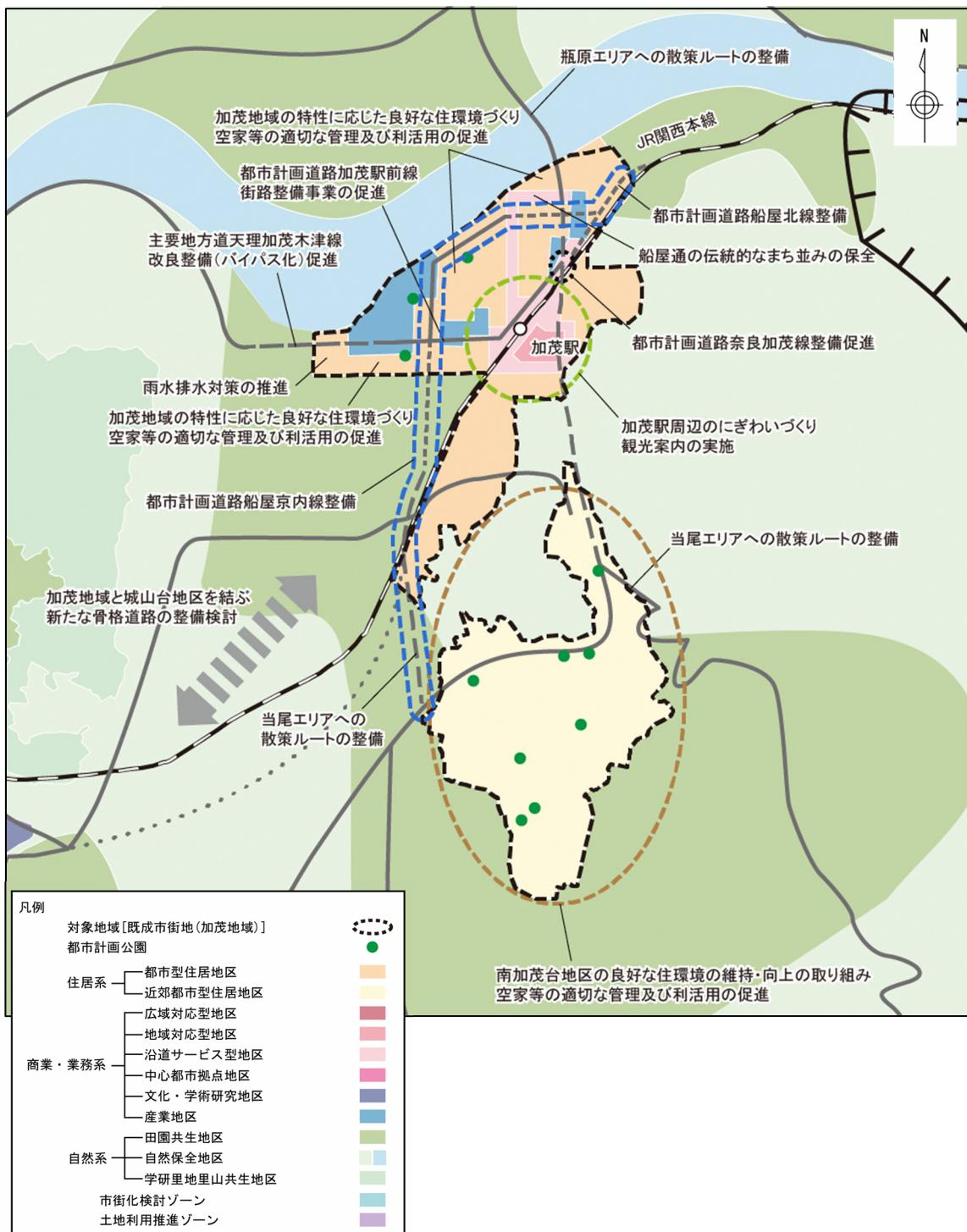
### ○中心都市拠点の都市機能を強化する市街地形成の検討



凡例	
対象地域 [木津駅東側地区及び城山台の一部]	
都市計画公園	●
住居系	□
近郊都市型住居地区	■
広域対応型地区	□
地域対応型地区	■
沿道サービス型地区	□
中心都市拠点地区	■
文化・学術研究地区	■
産業地区	■
商業・業務系	□
田園共生地区	■
自然系	□
自然保全地区	■
学研里地里山共生地区	■
市街化検討ゾーン	□
土地利用推進ゾーン	■

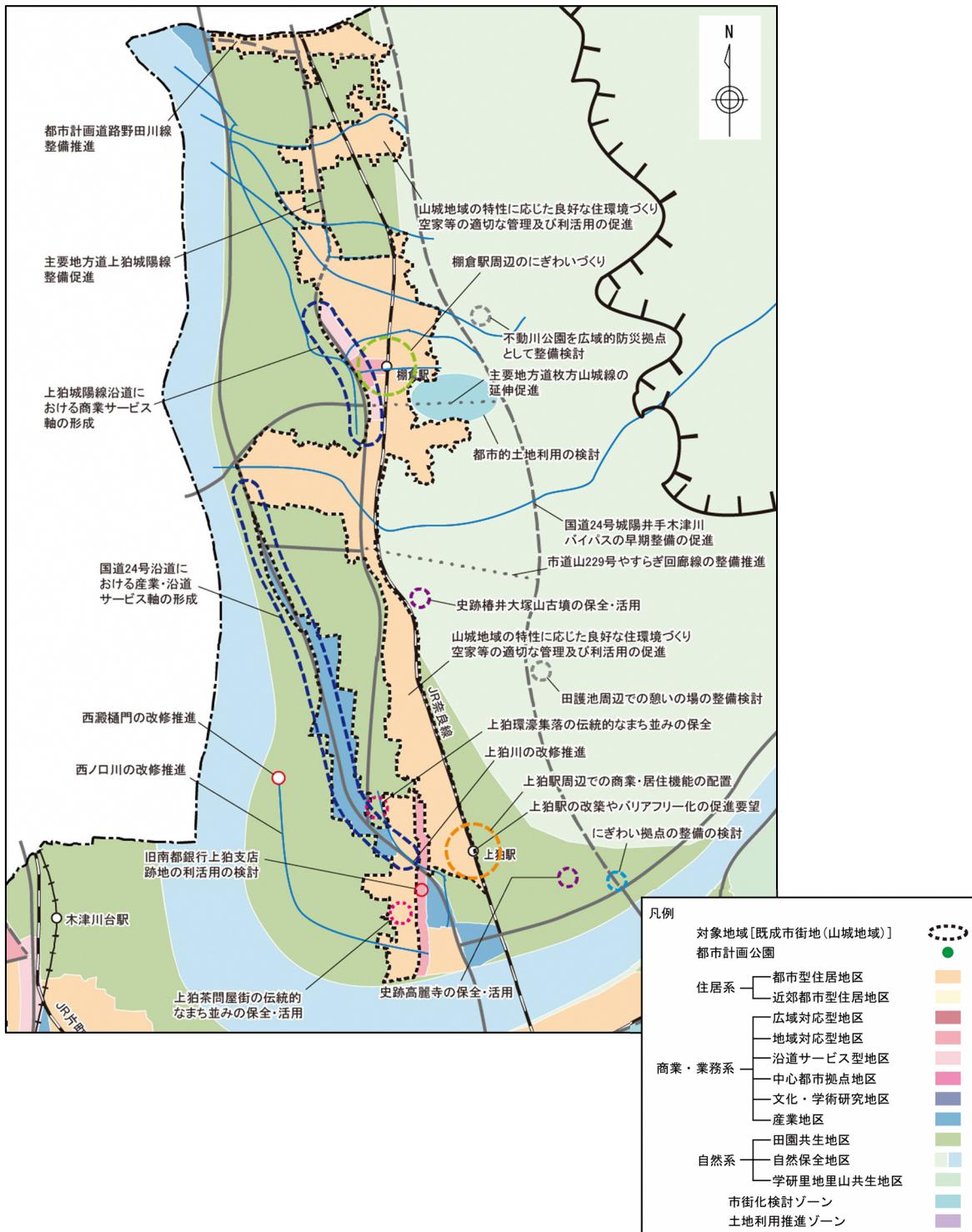
### 3 既成市街地（加茂地域）

- 自然と歴史文化の里・加茂の玄関にふさわしい都市拠点の形成
- 環境と調和した良好な居住地の形成



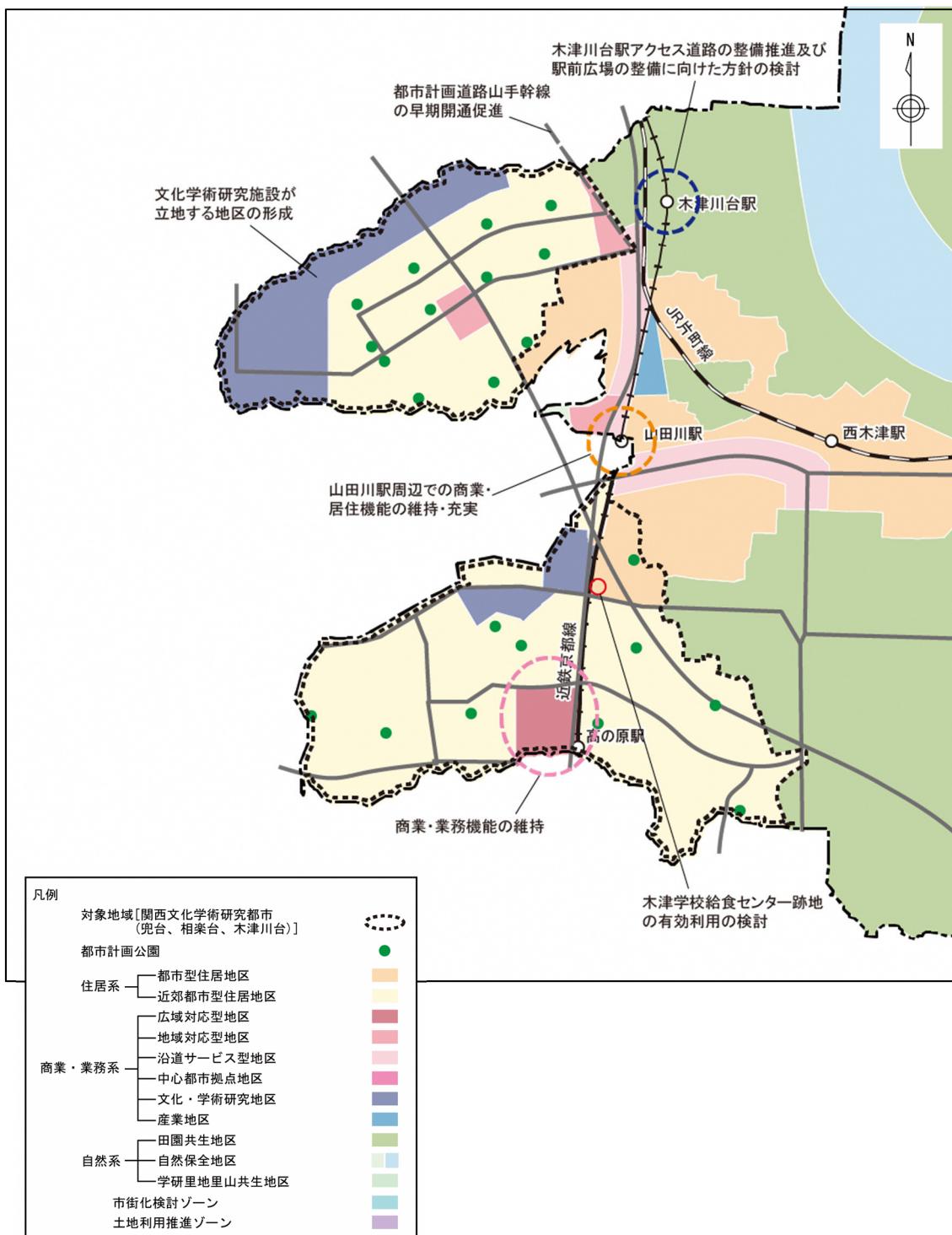
## 4 既成市街地（山城地域）

- 豊かな田園環境と調和した都市拠点・地域拠点の形成
- 環境と調和した良好な居住地の形成
- 防災機能の充実
- 立地特性を活かした産業地区の形成と都市的土地区画整理事業の推進



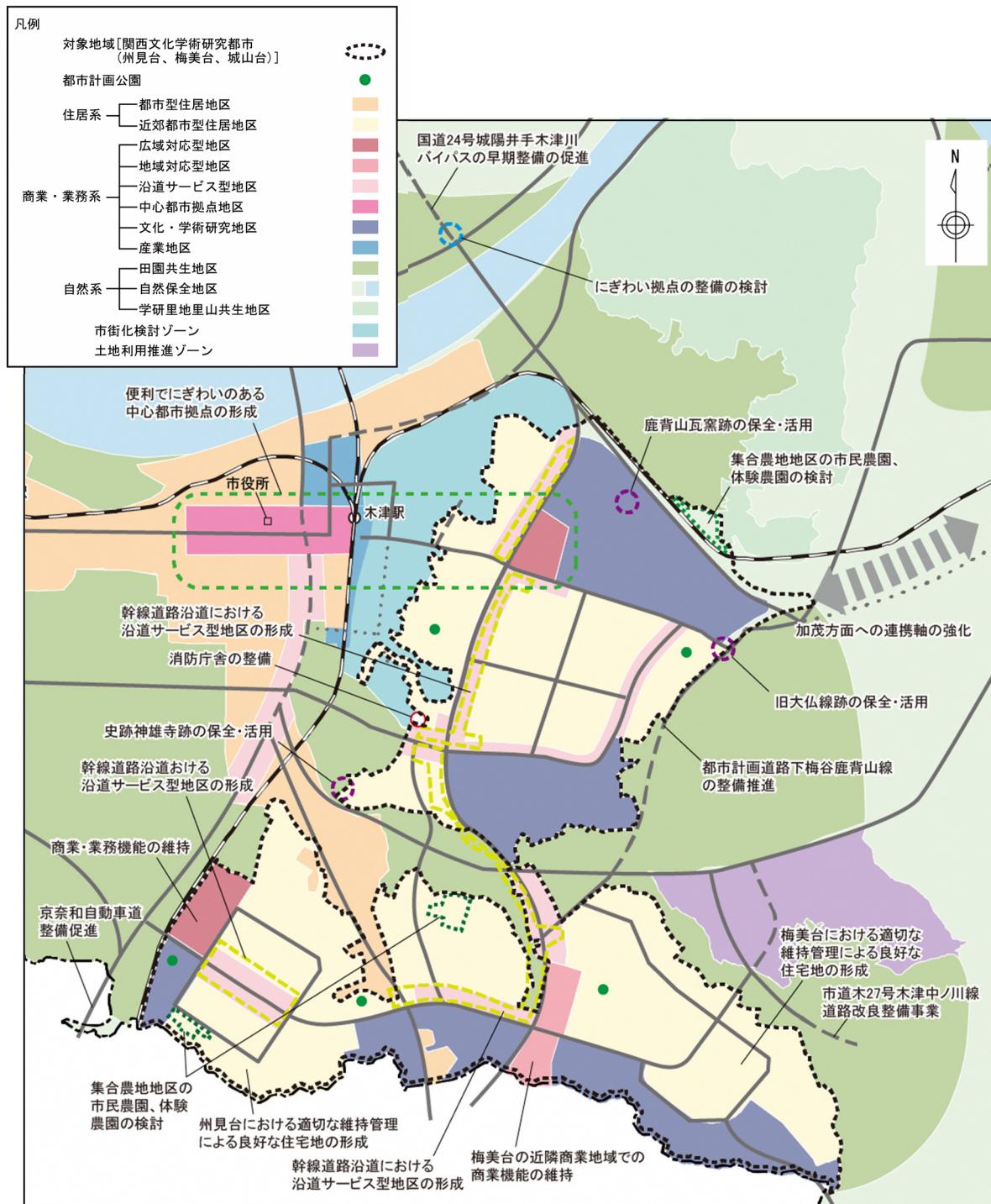
## 5 関西文化学術研究都市（兜台、相楽台、木津川台）

### ○成熟した関西文化学術研究都市の良好な住宅地、文化学術研究地区 及びセンターゾーンの形成



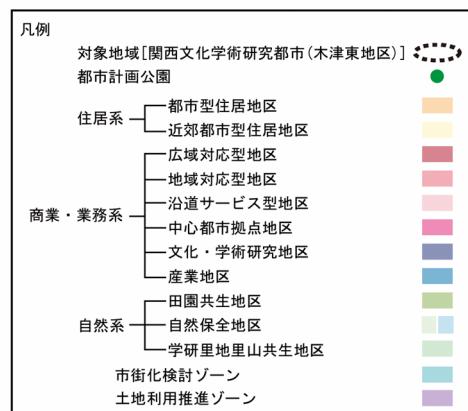
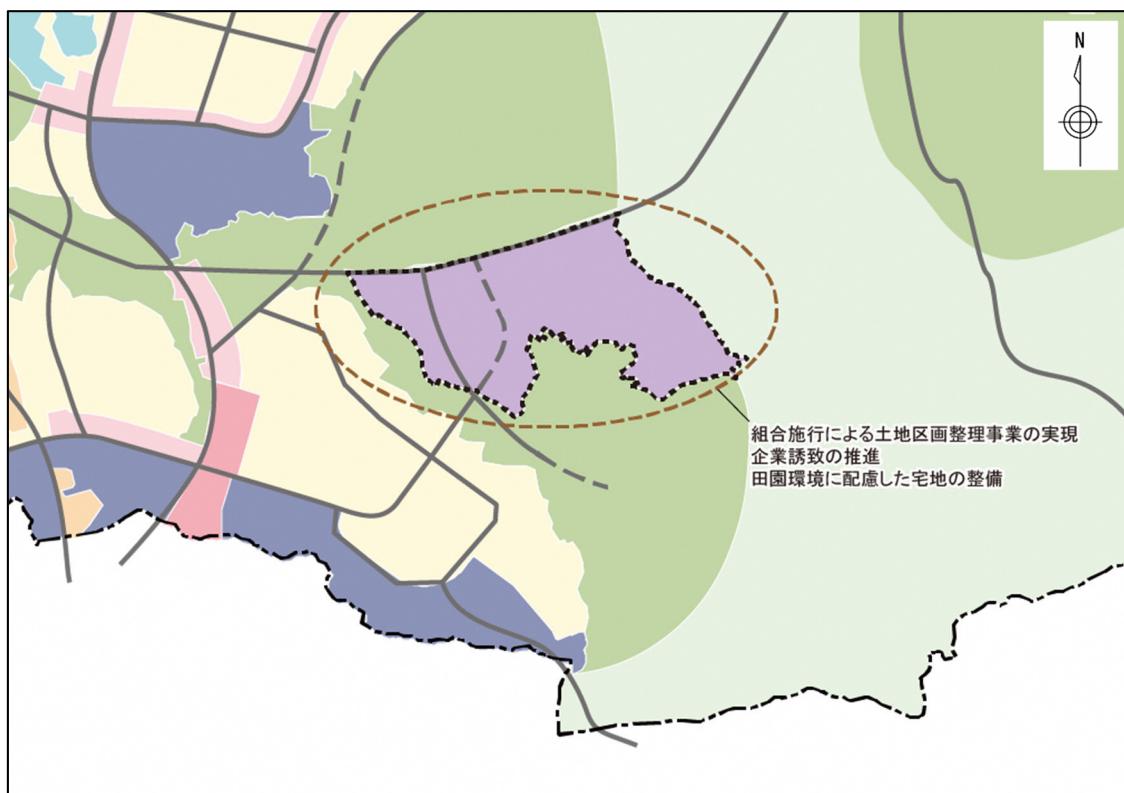
## 6 関西文化学術研究都市（州見台、梅美台、城山台）

### ○新たな時代の関西文化学術研究都市にふさわしい良好な住環境、商業地区、文化学術研究地区の形成



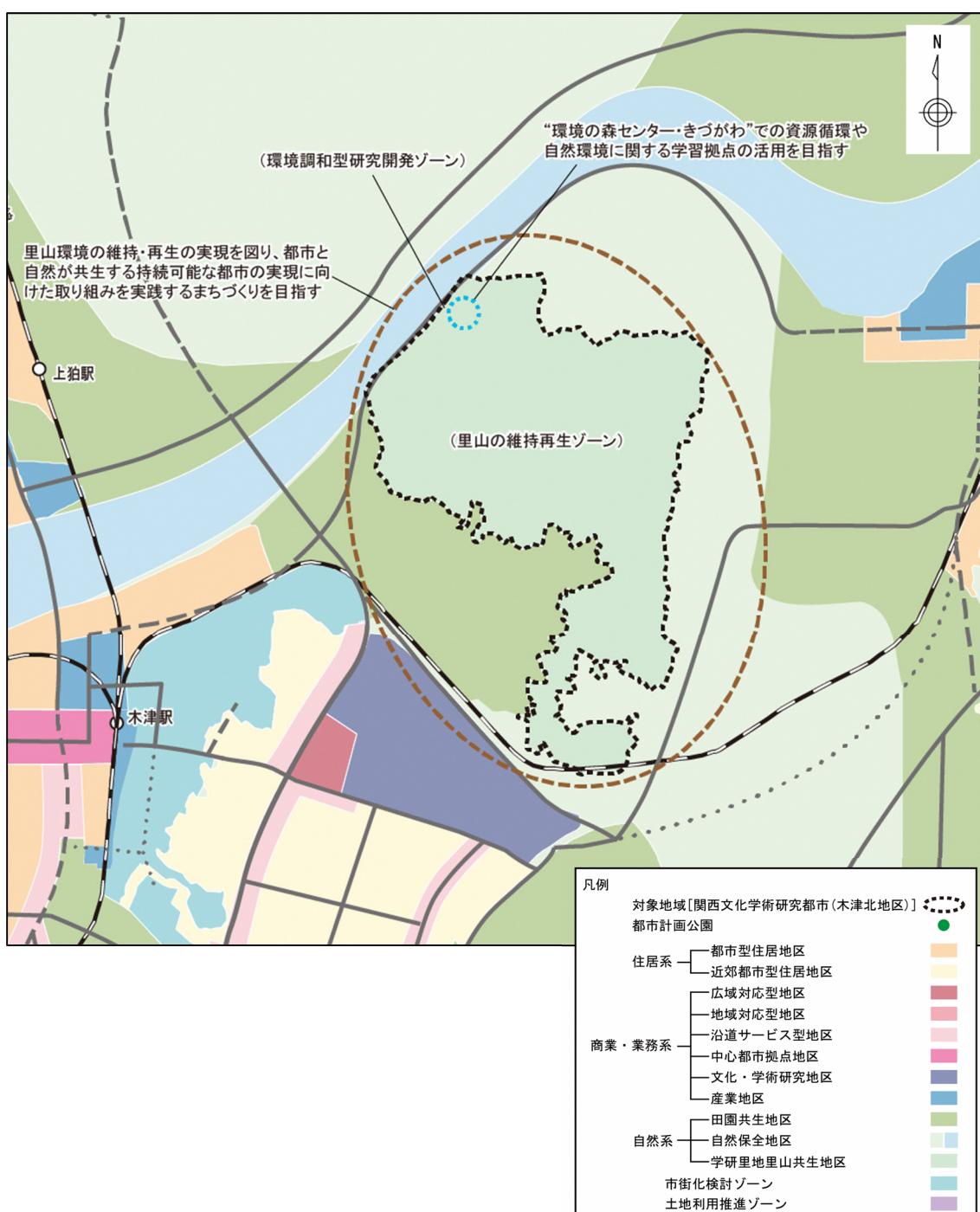
## 7 関西文化学術研究都市（木津東地区）

- 関西文化学術研究都市の発展
- 権利者の意向に沿った土地利用の推進



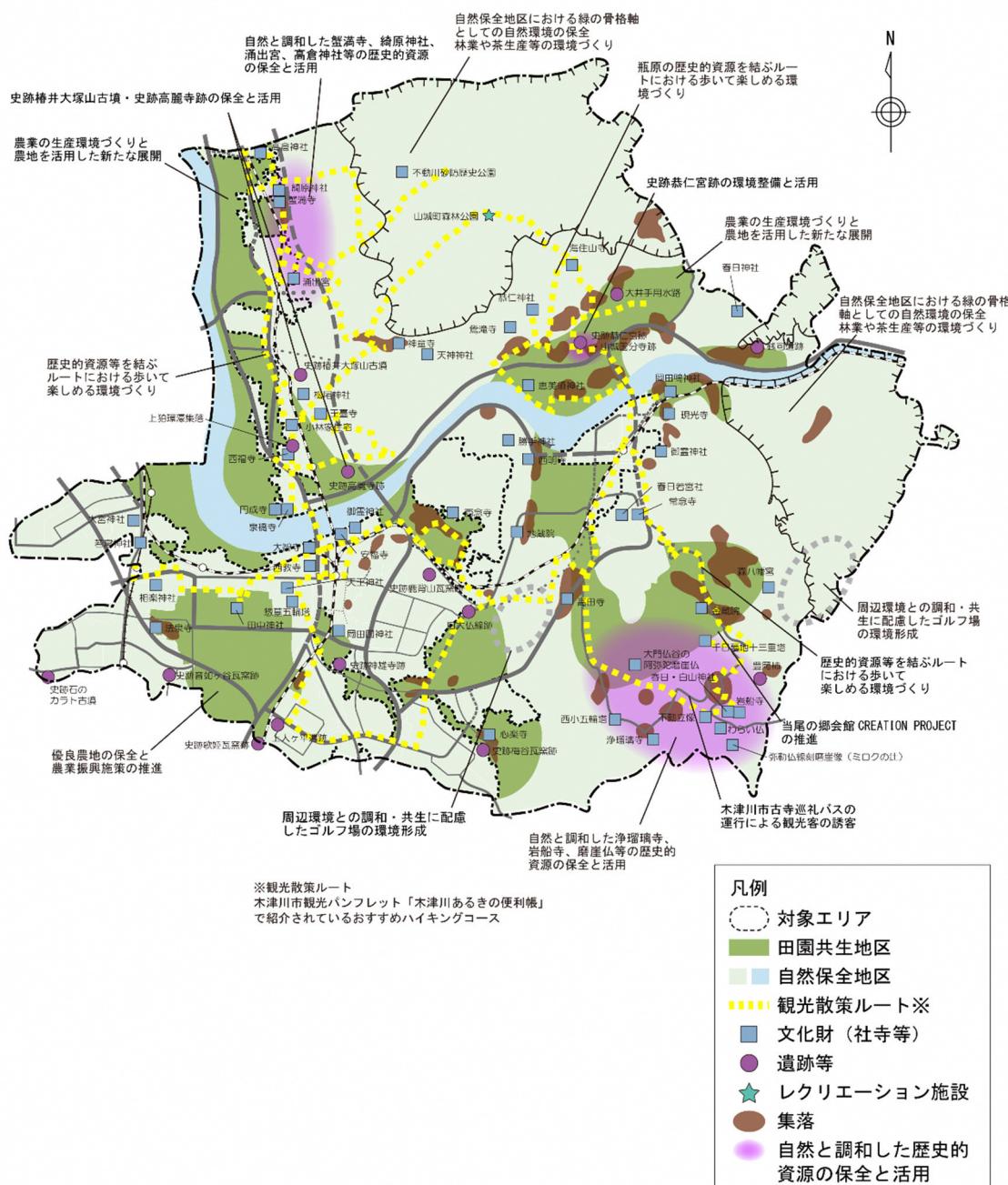
## 8 関西文化学術研究都市（木津北地区）

- 身近な自然の保全活用と継承
- 環境負荷を低減する生活環境づくり
- 持続可能な社会のための科学の実践



## 9 農山村集落と農地、山林

- 豊かな自然環境の保全・活用
- 安心して住み続けられる農山村集落の形成
- 自然や歴史的・文化的遺産を活かした観光の環境づくり
- 生産性の高い農業環境づくり







木津川市

**第2次木津川市都市計画マスタープラン  
～自然と文化を身近に 未来を拓く学研都市 木津川～**

発行日／令和3年3月

編 集／木津川市建設部都市計画課

〒619-0286 京都府木津川市木津南垣外110-9

TEL:0774-72-0501（代）

TEL:0774-75-1222（建設部都市計画課） FAX:0774-72-8382

E-mail:tokei@city.kizugawa.lg.jp